

# 「前橋」再発見

たどりながら -



J R前橋駅前ケヤキ並木

「水と緑と詩のまち」とうたわれるわたしたちの街、前橋。J R前橋駅前に降り立れば、五百坪にわたって続く壮大なケヤキ並木が、訪れる人たちを出迎えてくれます。緑は一朝一夕に出来上がるものではありません。このケヤキ並木も、半世紀以上の歳月をかけて成長し、今、街並みとしての風格を、わたしたちを感じさせてくれます。豊かな緑を守り続けていくために、前橋市の街路樹について、その歴史をひもときながら、一緒に見つめ直してみませんか。今回、わたしたち市民編集委員が、市公園緑地課に街路樹の現状を取材しました。

## 街路樹の誕生

前橋市の街路樹の歴史は、太平洋戦争の戦災復興の一環として始まりました。空襲で焼け野原となった市街地に、第一号として植えられたのがJ R前橋駅前のケヤキ並木です。現在約九十本ものケヤキの堂々とした姿は、前橋市の象徴ともいえる存在になりました。

当時から、とにかく緑を増やそうと、二・五以上の歩道であれば、できるだけ街路樹を植えてきたそうです。

しかし、阪神大震災以降、災害時の避難やバリアフリーなどの観点から、歩道幅は三米以上必要とされ、街路樹も広い歩道だけに植樹する方向が変わってきました。

## 樹種の選定

街路樹としてどんな木を植えるのかについては、昭和四十年代後半ごろから、周辺地域住民と市が意見交換しながら決めるようになりました。区画整理事業の行われた日吉町地区では、道路ごとに異なる樹種を選定。その結果、サルスベリ、トウカエデ、ハナミズキ、とそれぞれに特徴のある木を植えた街路樹通りが生まれたのです。

市道に植えられている主な樹木

樹木名	本数	比率(%)
イチヨウ	2,055	20
ハナミズキ	1,870	18
サクラ	870	8
トウカエデ	661	6
ヤマボウシ	530	5
モミジハフウ	494	5
カツラ	489	5
ユリノキ	388	4
ケヤキ	345	3
エンジュ	247	2

現在、市道の街路樹で一番多いのは、右表のとおりイチヨウで、全体の約二〇%を占めています。次いでハナミズキ、サクラの順になっています。イチヨウは環境適応力に大変優れており、見栄えも良く、病害虫にも強いことが街路樹として適しているのだそうです。

## 管理の大変さ

街路樹は、ただ植えれば良いというものではありません。除草、枝葉の剪定、害虫の駆除などを定期的に行う必要が、あります。剪定は、主に冬季に行われます。エンジュなどの風に弱い木に対しては、台風による倒木を防ぐ目的で、夏季に剪定することもあるそうです。